

令和7年度第2回伊勢市総合計画審議会 議事要録

◆日時 令和7年10月14日（火）18：30～20：15

◆会場 伊勢市役所 本庁舎東館5階 5-3、5-4 会議室

◆出席委員

下野功純委員、藤本美保子委員、伊坂弘子委員、竹澤尚美委員、鈴木まき委員、森口留美子委員、河井英利委員、村田久実委員、西村幸泰委員、藤原寛仁委員、板井正齊委員、林孝昭委員

◆欠席委員

山本政善委員、村田典子委員、伊藤良栄委員

◆出席職員

情報戦略局（情報戦略局長、情報戦略局参事、企画調整課長、同企画調整係長、同主査、同職員）
環境生活部（環境生活部長、環境生活部参事）、教育委員会事務局（事務部長）
健康福祉部（健康福祉部長）、危機管理部（危機管理課長）
産業観光部（産業観光部長）、都市整備部（都市整備部長）
総務部（総務部長）、上下水道部（上下水道部長）、消防本部（消防長）

◆議事概要

1 第3次伊勢市総合計画・後期基本計画（案）について

・【資料1】第3次伊勢市総合計画・後期基本計画（分野別計画）（案）について説明

≪意見・質問など≫

●分野1

- ・定年延長の影響により、70歳を過ぎてから地域活動に参画する。精力的に取り組むことが難しい現状である。
- ・地域活動をする人材が不足している中、デジタルを活用しながら情報共有を進めている。
- ・若者の参画のため、お木曳青年団を立ち上げた。地域活動の中心に青年層に入ってもらっている。一時的なものにしないような工夫が必要であり、伊勢市全体の課題と考える。
- ・市民活動のPRについて、市民に情報が届いていない現状もあり、課題と考える。
- ・人権課題の啓発について、広報紙やデジタル活用のほか、ときには地域に出向いて自治全会単位で話すなども必要ではないか。
- ・人権課題について、どう解決するかを検討するにあたって、まずは実態を把握することが大切である。
- ・自治会において、外国人との共生が課題であり、現状把握・取組が必要ではないかと考える。
- ・四郷小でオーケストラの演奏があり、鑑賞を希望する住民が多数であった。市民は上質な文化・芸術と触れ合う機会を求めている。
- ・自治会加入率の向上に向けて、自治会加入のメリットなどをチラシ作成し、PRを行っている。
- ・市民活動登録団数の減少について、何か傾向をつかんでいるか。
→活動者の高齢化等により登録を取りやめる団体が多い。一方でR6年度は新規登録

団体が8件あったことから、支援を行っていきたい。

- ・人口が減少するなか外国人住民人口は増加している。総人口に対する割合が増えているという視点で把握していくことが必要だと考える。
- ・目標指標「男は仕事、女は家庭」などの性別による固定的な役割分担意識について否定的な回答の割合(%)について、こういった趣旨で置いた指標か。
 - 男女がそれぞれの意思を尊重し、能力を発揮できるよう、アンコンシャスバイアス(性別による無意識の思い込み)を解消していきたい考えから、目標指標としたもの。
- ・「否定的な」という表現について、意図が伝わりづらいのではないか。
- ・国際交流については相互理解が重要であると考えるが、目標指標「国際交流に関心のある市民の割合」について、回答者における外国人の割合は。
 - 市民アンケートについては、回答者の国籍を問う設問がないため、把握できていない。相互理解の視点について、参考としたい。

●分野2

- ・防災の観点から、学校での防災教育(学校防災)に関する取り組みを追記してはどうか。
 - 防災ノートや副本を配布し、防災教育を進めている。
 - 「2-1-3 安全で安心な教育環境づくり」において、ソフト面に関する記載の追加を検討したい。

●分野3

- ・3Rを推進する取組を行っている。
- ・環境に関する紙芝居、環境教育を学童保育の場においても実施するなど、啓発に力を入れている。
- ・環境フェアにおいては、海を守るきっかけとして海上保安庁から絵本の寄贈もあった。
- ・食品ロス削減クッキング講座について、現状は申し込みが少なく、参加を呼び掛けていきたい。

●分野4

- ・4-3-3、4-5-1、4-5-3の目標指標は、単にサポーターの登録者数等となっているが、地域で活動するひとづくりが不足しているなか、実際の活動につながることで、4-2-2の指標のように活動につながったことが把握できる指標があればいい。
- ・目標指標「放課後児童クラブの利用充足率」については、実績値を見ても既に取組が足りているということではないか。児童館をより活用してもらうため、利用者数等を測っていくのはどうか。
 - 充足率100%を維持していきたい考えから、指標を設定しているものであるが、改めて部局で検討したい。
 - 追加を検討してはどうか。
- ・「4-1-3 地域医療体制の整備」における「医療の不採算部門への支援」という表現について、取組の意義が市民が伝わるように修正を。
- ・市立伊勢総合病院について、目標指標の「在宅復帰率」が高い水準であるのは地域の関係機関等との連携によるものであることから、そういった背景についても記述があるとい

い。

- ・目標指標「妊娠等包括相談支援の実施数」について、子どもの数が減っていく中で、実施数ではなく割合とするのはどうか。
→部局で検討したい。

●分野5

- ・地域の防災活動、自主防災組織などにおいて、高齢化が進む一方で、若者の参加が少ないなどの課題がある。参加者総数ではなく、どんな地域でどんな人が講習会に参加したかなど、質的な評価をすることが重要である。また、講習会をやることに意義があるのではなく、どのような課題が見つかったかを共有するなど、プロセスが重要であると考えている。
→地域での防災活動はコロナ禍での落ち込みを経て徐々に回復してきているものの、コロナ禍前には戻っていない状況であることから、回数等を測る指標を設定している。今後も、地域に入りながら促進を図っていきたいと考えている。
- ・消防団員に関する指標があるといいのではないか。
→消防団員は定数 559 名に対して 553 名となっており、充足している状況である。大規模災害に備えた研修・訓練に重点を置いていることから、指標を設定した。消防団員も参加する大規模災害訓練も実施している。
→回答を踏まえ、「取組の方向性」への記載の追加等を検討してはどうか。

●分野6

- ・独立就農時には農業機械だけでなく、施設（ハウスや倉庫）が必要となる。農業機械の値上げや、倉庫を借りたいが見つからないなどの課題がある。
- ・農業において近年顕著となっている課題は温暖化であり、生育不良や、果実の日焼け、収穫期がずれるなど、問題が起こっている。暑さに強い品種へ転換しても、その品種の認知が低く、価格が安いなどの課題がある。
- ・目標指標「担い手の農地利用集積率」について、担い手に集積しても農地が分散していると農作業の効率が悪いことから、集約化の観点も必要である。
- ・目標指標「農産物の高付加価値化に向けた取り組みの支援数」も必要ではあるが、生まれた効果（ブランド数、6次産業品、ふるさと納税への登録など）が重要ではないか。
→農業振興基本計画との整合も図りながら、指標の設定をしている。意見を参考としていきたい。
- ・観光需要は回復しているものの、交通対策、駐車場問題、観光動線など、受け入れ体制が追いついていない部分がある。混雑の分散、ルートの工夫、周辺地域への回遊などが課題となっている。
- ・宿泊者数は増加しているものの、多くが日帰りである。観光協会においても、夜の観光を楽しんでもらうためのイベント等を実施している。体験系・食などを充実させ、滞在時間を延ばして宿泊者数を増加させる必要がある。
- ・観光消費額についてはまだ伸び代があると感じることから、買い物中心から地場産品との連携や体験型観光への転換など、お金が地域で回る仕組みを強化していく必要がある。
- ・観光の満足度を向上させるため、人手不足、混雑、利便性の問題が背景にあると考えられる。トイレなどの環境整備、観光ガイドやボランティアの人材育成など、受け入れ体制の

強化を図り、観光の質を向上させる必要がある。

- ・ 質の向上の目安として、滞在時間や再訪率などを指標としてもいいのではないか。
- ・ 伊勢に戻りたいと考える大学生と市内企業をつなぐ取組について、工夫を凝らした機会づくりが必要である。
- ・ 高校の進路担当教諭と情報交換をしながら、市内企業を知ってもらう機会の創出を。
- ・ 就職氷河期世代などの社会復帰については、深掘りをしていくためのデータどりが必要ではないか。
- ・ 社会復帰のためのボランティア体験をきっかけに、どれぐらいの方が就労につながったかなど、把握・分析も必要である。

●分野7

- ・ 新しい交通システム（ライドシェア、自動運転バス）の導入・拡充に向けて、単に新しい技術を導入したという実績だけでなく、利用されたかどうか重要であることから、利用者数などのモニタリング指標を追加してはどうか。
→検討する。

●分野8

- ・ 持続的な財政運営についての取組が、公共施設マネジメントの推進のみのように見えるので、他の取組の記載も必要ではないか。
→より丁寧な記載を検討する。
- ・ 行政組織力・職員のワークライフバランスが市民サービス向上につながる。
- ・ 市民からの信頼をより高めるため、職員のコンプライアンス意識の向上が重要であるため、記載を追加してはどうか。
→記載を検討する。
- ・ 総労働時間の管理の観点から、年次有給休暇の取得日数だけでなく、職員の時間外勤務数なども指標として加えてはどうか。
→法的な上限数はあるものの、目標値等の設定が難しい。研究をしていきたい。